

# 子どもの学校生活場面のリーダーシップに関する研究 —遊びとスポーツクラブ，体育との関係—

堺 賢治・藤原 誠 (保健体育研究室)  
伊賀上 哲 旭 (NPO法人しまなみスポーツクラブ)

## A study of school life leadership

—The relation of play, sports club and physical education—

Kenji SAKAI, Makoto FUJIWARA and Tetsuaki IGAUE

(平成22年6月5日受理)

### I. 序論

スポーツ振興基本計画施行から10年が経過した。2010年現在，全国で2,905の総合型地域スポーツクラブが設立されている。しかしながら，総合型地域スポーツクラブを設立している地域は，まだ地域共同体が残っている農村地域に多く，地域共同体の崩壊した都市部に少ないといえる<sup>1)</sup>。都市部に多くの総合型地域スポーツクラブを設立した「スポーツクラブ21ひょうご」における問題点は，小学校の敷地内に多くのクラブがクラブハウスを構えているにもかかわらず，小学校と連携しているクラブが少ないことである<sup>2)</sup>。都市部で総合型地域スポーツクラブを多く設立するためには小学校との連携が必要になってくる。

そのために，学校側を説得するためには，体力づくり論からよりも学級経営論からのアプローチが必要である。つまり，総合型地域スポーツクラブは学級経営に役立つという研究である。小学生の保護者が今一番心配する教育問題は，「コミュニケーション能力の低下」「問題解決能力の低下」などの人間関係能力の低下によってもたらされる問題や「道徳性の低下」「規範を守れない子どもたちの低下」などの地域共同体の崩壊がもたらす問題が上位を占めている<sup>3)</sup>。そこで，これらの問題を解決できる一つの方策として総合型地域スポーツクラブがある。

今の学校生活に目を向けると，学級の中でのリーダー不在という，集団生活を送る上で深刻な問題がある。従来，遊び場面でリーダーシップを発揮していた子どもが，

学級の中でリーダーになっていた。しかし，遊びの貧困化により，リーダーシップ能力やコミュニケーション能力が低下し，学級委員長になる子がいない，なるべき子がならない。

遊び場面でのリーダーシップ能力の高い子どもは学校生活においてもリーダーシップ能力が高い<sup>4) 5)</sup>，という研究が成されている。よりよい学級経営のため，運動やスポーツを通してリーダーシップ能力の高い子どもを育成しなければならない，それが出来るのが総合型地域スポーツクラブである。

都市部の中学2年生に「スポーツや運動が好きになる場」をたずねたところ，遊び(23.3%)，スポーツクラブ(20.5%)，体育の授業(15.9%)という結果であった<sup>6)</sup>。遊びの貧困化によりリーダー不在という問題が深刻化する中，学校生活場面のリーダーシップと子どもの遊び，スポーツクラブ，体育の授業との関係について研究することは，遊び場面のリーダー不在から学校生活や学校経営に悪影響を与えているという負のスパイラルを止めるきっかけになるのではないだろうか。そこで本研究では，今までの研究と視点をかえて，学校生活場面でリーダーシップを発揮している子どもは，遊び・スポーツクラブ・体育の授業でどのような特性を持った子どもであるかを明確にすることを目的にした。

### II. 方法

調査対象：愛媛県松山市の小学校の5年生 895名

調査期間：2009年11月

調査方法：質問紙による配票調査

回収率：有効回収数 849名 有効回収率 94.8%

分析の視点

(1) 性別

男子 (N=439 51.7%)

女子 (N=410 48.3%)

(2) 学校生活場面のリーダーシップ能力

子どもたちは学校生活場面において、様々なリーダーシップ発揮の場面がある。そのような場面を想定し、次のような調査内容を作成した。

- ①委員会や係の仕事を一生涯懸命する。
- ②一度始めたことは、三日ぼうずでなく続けることができる。
- ③そうじのとき、そうじをしない人に注意をする。
- ④わからないことがあるときは、わかるまで調べる。
- ⑤学校の成績は良いほうである。
- ⑥自習のとき、さわいでいる人に注意をする。
- ⑦学級会のときは自分の意見を積極的に発言する。
- ⑧いままで同級生や下級生を使って仕事をしたことがある。
- ⑨発表会の出し物などは自分が決めて進めていく。
- ⑩学級会のときにみんなの意見がたくさんでた後、その意見をまとめる。
- ⑪先生は自分をたよりにしていると思う。
- ⑫自分の発言によって全体がまとまる。
- ⑬みんなが先生におこられたとき、どのようにあやまるかみんなに言う。
- ⑭みんなが先生におこられたとき、じょうだんを言ってクラスを明るくしようとする。

これらの質問に関しては、4段階にランク付けされた回答（よくあてはまる…4点、ややあてはまる…3点、ややあてはまらない…2点、全然あてはまらない…1点）を用意した。

上記のすべての回答を合計したものから、得点が39点以上を学校生活でのリーダーシップ能力が高い上位群、得点が26～38点は中位群、得点が25点以下を学校生活でリーダーシップ能力が低い下位群の3つに分類した。

合計得点39点以上 N=202 (30.4%) …上位群

合計得点26～38点 N=443 (52.2%) …中位群

合計得点25点以下 N=204 (24.0%) …下位群

Ⅲ. 結果及び考察

1. 遊び

(1) 遊び時間

表1は平日の遊び時間をあらわしたものである。全体では、「1～2時間」が43.5%と最も多く、「1時間未満」の22.6%、「2～3時間」の20.1%と続いている。性別で比較すると、「2時間以上」遊んでいる男子は35.8%、女子は20.0%であり、男子の方がよく遊んでいる。

リーダーシップ能力で比較すると差はみられない。

表1 平日の遊び時間 (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
0分	0.5	0.7	1.0	0.5	0.5	0.6
1時間未満	18.0	27.6	22.8	22.6	22.5	22.6
1～2時間	41.4	45.6	39.1	45.4	43.7	43.5
2～3時間	25.1	14.9	20.3	20.5	19.1	20.1
3～5時間	9.3	4.6	9.4	5.2	8.8	7.1
5～7時間	0.9	0.5	2.0	0.0	1.0	0.7
7時間以上	0.5	0.0	0.0	0.2	0.5	0.2
無回答	4.3	6.1	5.4	5.6	3.9	5.2

P<0.001 ( $\chi^2$ 検定) N.S.

表2は休日の遊び時間をあらわしたものである。全体では、「3～5時間」が34.9%と最も多く、次いで、「5～7時間」の22.1%となっており、平日に比べてよく遊んでいる。性別で比較すると、「5時間以上」遊んでいる男子は36.3%、女子は28.7%であり、男子の方が遊んでいる傾向がみられる。

リーダーシップ能力で比較すると、「5時間以上」遊んでいる上位群は29.7%、下位群は39.2%であり、下位群の方が遊んでいる傾向がみられる。

表2 休日の遊び時間 (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
0分	0.0	0.5	0.0	0.2	0.5	0.2
1時間未満	5.0	6.8	4.5	7.2	4.4	5.9
1～2時間	12.3	12.2	13.9	11.7	11.8	12.2
2～3時間	9.6	11.2	12.9	11.1	6.4	10.4
3～5時間	32.9	36.9	35.0	35.2	33.8	34.9
5～7時間	23.5	20.7	20.3	22.6	23.0	22.1
7時間以上	12.8	8.0	9.4	8.4	16.2	10.5
無回答	3.9	3.7	4.0	3.6	3.9	3.8

N.S. N.S.

(2) 遊び空間

表3は平日の遊び空間をあらわしたものである。全体では、「自分の家の中」や「友達の家の中」などの「中遊び」をしている子どもは42.2%,「公園」「学校の運動場」「神社・寺」などの「外遊び」をしている子どもは31.3%,「家の近所」や「家の庭」などの「家の周辺」で遊んでいる子どもは21.6%である。性別で比較すると、「外遊び」をしているのは、男子34.4%,女子27.7%となり、男子の方が外遊びをよくしている。

リーダーシップ能力で比較すると、「外遊び」している子どもは、上位群35.7%,中位群31.3%,下位群26.5%であり、上位群ほど外遊びをしている傾向がみられる。

表3 平日の遊び空間 (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
公園	20.3	17.8	20.8	20.5	14.2	19.1
学校の運動場	5.9	7.8	8.9	6.1	6.4	6.8
町の運動場	0.5	0.2	0.0	0.5	0.5	0.4
空き地・原っぱ	1.8	0.2	0.5	1.1	1.5	1.1
道路	1.6	1.0	0.5	2.0	0.5	1.3
川・山・田畑	0.9	0.2	1.5	0.2	0.5	0.6
神社・寺	3.4	0.5	3.5	0.9	2.9	2.0
家の近所	15.0	16.8	15.3	16.0	16.2	15.9
家の庭	5.0	6.3	5.0	6.5	4.4	5.7
自分の家の中	27.4	34.0	27.6	29.7	34.8	30.4
友達の家の中	13.4	10.0	10.9	11.1	14.2	11.8
その他	2.7	1.5	3.0	2.3	1.0	2.1
無回答	2.1	3.7	2.5	2.9	2.9	2.8

P<0.01 N.S.

表4 休日の遊び空間 (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
公園	19.5	21.2	19.7	21.4	18.6	20.4
学校の運動場	4.8	2.0	4.5	2.3	4.9	3.4
町の運動場	0.5	0.5	1.0	0.5	0.0	0.5
空き地・原っぱ	3.0	1.7	2.0	3.2	1.0	2.4
道路	1.6	0.7	1.5	1.6	0.0	1.2
川・山・田畑	2.7	0.2	2.5	1.1	1.5	1.5
神社・寺	3.2	1.0	2.5	1.6	2.9	2.1
家の近所	12.1	16.1	18.8	11.5	14.7	14.0
家の庭	6.2	5.4	4.0	7.4	3.9	5.8
自分の家の中	21.3	26.8	19.3	24.1	28.5	23.9
友達の家の中	17.3	16.6	15.3	17.4	17.6	17.0
その他	5.5	5.4	6.4	5.4	4.4	5.4
無回答	2.3	2.4	2.5	2.5	2.0	2.4

P<0.01 N.S.

表4は休日の遊び空間をあらわしたものである。全体では、「中遊び」をしている子どもは40.9%,「外遊び」

をしている子どもは31.5%,「家の周辺」で遊んでいる子どもは19.8%であり、平日と比べてもあまり差はみられない。性別で比較すると、「外遊び」している男子は35.3%,女子は27.3%であり、男子のほうが外遊びをしている。

リーダーシップ能力で比較するとあまり差はみられない。

(3) 遊び仲間

表5は平日の遊び仲間の人数をあらわしたものである。全体では、「3~4人」で遊んでいる子どもは39.7%と最も多く、次いで、「2人」の28.5%,「1人」の13.7%となっており、子どもたちは少人数で遊ぶをしているといえる。性別で比較すると、「3人以上」で遊んでいる男子は66.3%,女子は43.4%であり、男子の方が多人数で遊んでいることがわかる。

リーダーシップ能力で比較すると、「3人以上」で遊んでいる子どもは、上位群63.3%,中位群54.6%,下位群48.4%であり、リーダーシップ能力の高い子どもほど多人数で遊んでいる。

表5 平日の遊び人数 (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
1人	13.4	13.9	9.4	14.2	16.7	13.7
2人	18.2	39.5	25.2	28.2	32.4	28.5
3~4人	45.8	33.4	39.6	40.4	38.6	39.7
5~9人	15.7	7.6	17.8	10.2	9.3	11.8
10人以上	4.8	2.4	5.6	4.1	0.5	3.7
無回答	2.1	3.2	2.0	2.9	2.5	2.6

P<0.001 P<0.01

表6は休日の遊び仲間の人数をあらわしたものである。全体では、「3~4人」で遊んでいる子どもは41.3%と最も多く、次いで、「5~9人」の21.3%,「2人」の19.0%となっており、平日よりも多人数で遊んでいる。性別で比較すると、「5人以上」で遊んでいる男子は34.8%,女子は16.3%であり、男子の方が多人数で遊んでいることがわかる。

リーダーシップ能力で比較すると差はみられない。

表6 休日の遊び人数 (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
1人	13.2	10.7	8.9	12.2	14.7	12.0
2人	13.9	24.4	15.3	19.6	21.1	19.0
3～4人	35.5	46.8	45.5	40.4	37.7	41.0
5～9人	28.2	13.9	22.3	21.0	21.1	21.3
10人以上	6.6	2.4	5.4	4.7	3.4	4.6
無回答	2.5	1.7	2.5	2.0	2.0	2.1

P<0.001 N.S.

(4) 多人数で遊ぶ

表7は多人数で遊ぶ(野球, サッカー, ドッチボールなど)のためにあまり親しくない友達を含めて作られる活動集団<sup>7)</sup>で遊んだことをたずねたものである。全体では、「一緒に遊ぶことが多い」と回答した子どもは13.5%であり, 子どもたちが活動集団であまり遊んでいないことがわかる。性別で比較するとあまり差はみられない。

リーダーシップ能力で比較すると, 「一緒に遊ぶことが多い」という子どもは, 上位群22.3%, 中位群12.9%, 下位群6.9であり, リーダーシップ能力の高い子どもほど活動集団での遊びをしていることがわかる。

表7 多人数で遊ぶ (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
一緒に遊ぶことが多い	16.2	10.7	22.3	12.6	6.9	13.5
時々遊ぶことがある	46.9	45.4	46.5	45.1	48.0	46.2
ほとんど遊んだことがない	26.0	32.7	22.3	30.5	33.3	29.2
遊んだことがない	9.1	10.2	5.9	10.6	11.3	9.7
無回答	1.8	1.0	3.0	1.1	0.5	1.4

N.S. P<0.001

(5) 遊び場面のリーダーシップ

リーダーシップには, 目標達成機能と集団維持機能がある<sup>8)</sup>。それに基づき, 子どもたちの遊び場面に焦点を合わせ, 次のような調査内容を作成した。なお各場面において①～⑨に書いてあるものは目標達成機能に関する質問, ⑩～⑬に書いてあるものは集団維持機能に関する質問である。

- ①何をして遊ぶか, 自分で言い出して決める。
- ②遊びのルールを自分が進んで決める。
- ③遊びに行くときに友達をたくさん誘う。
- ④遊びが不得意な子には遊び方を教える。
- ⑤場所や用具によって, 遊びや遊び方を変える。
- ⑥遊びを切り上げるときやかたづけのときに, みんなに

呼びかける。

- ⑦誰かがけがをしたときにはすぐに対応できる。
- ⑧他の遊びのグループに対して, 自分たちの遊びに誘う。
- ⑨新しい遊びを考える。
- ⑩誰とでも仲良く遊ぶことができる。
- ⑪遊び方を決めるとき, 反対している人をなんとかして説得する。
- ⑫けんかになったら, すぐに止めに入って仲直りをさせようとする。
- ⑬ルールを決めるときは, なるべくみんなに意見を聞いてまとめる。
- ⑭友達が失敗したときにははげましの声をかける。
- ⑮いつも楽しく遊べるように, みんなに気を配る。
- ⑯怒ったり泣いたりした子の話を聞いてあげる。

これらの質問に関しては, すべて4段階にランク付けされた回答(よくあてはまる…4点, ややあてはまる…3点, ややあてはまらない…2点, 全然あてはまらない…1点)を用意した。

上記のすべての回答を合計したものから, 得点が51点以上の遊び場面でのリーダーシップ能力が高い群をA群(N=237, 27.9%), 40～50点をB群(N=396, 46.7%), 39点以下の遊び場面でのリーダーシップ能力の低い群をC群(N=260, 25.4%)とした。

表8は遊び場面におけるリーダーシップを示したものである。性別で比較すると, A群では女子29.6%, 男子26.4%であり, C群では男子29.4%, 女子21.2%である。遊び場面のリーダーシップ能力は女子の方が高いことがわかる。これは過去の三つの研究<sup>4) 5) 9)</sup>と同じ結果である。

リーダーシップ能力で比較すると, 上位群はA群66.8%であるのに対し, 下位群はC群8.8%と, 学校生活場面でリーダーシップを発揮している子どもは, 遊び場面でもリーダーシップを発揮していることがわかる。

表8 遊び場面におけるリーダーシップ (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
A群(51点以上)	26.4	29.5	66.8	19.0	8.8	27.9
B群(40点～50点)	44.2	49.3	30.7	59.1	35.3	46.7
C群(39点以下)	29.4	21.2	2.5	21.9	55.9	25.4

P<0.05 P<0.05

## 2. スポーツクラブ

### (1) スポーツクラブ加入の有無と形態

表9はスポーツクラブ加入の有無を示したものである。全体では、「スポーツ少年団（学校での部活動など）」に加入している子どもは30.2%、「その他のスポーツクラブ（スイミングクラブなど）」に加入している子どもは27.0%、「未加入」の子どもは46.2%である。性別で比較すると、「スポーツ少年団」加入者は男子42.1%、女子17.3%と圧倒的に男子の方がよく加入している。一方、「未加入」の子どもは、女子58.5%、男子34.6%と女子の方が多い。この理由として、野球やサッカーなど、男子向けのスポーツ種目がスポーツ少年団には多いからだと考えられる。

リーダーシップ能力で比較すると、スポーツ少年団加入者は、上位群36.6%、中位群30.2%、下位群23.3%であるに対し、未加入者は、上位群32.7%、中位群48.5%、下位群54.4%であり、上位群ほどスポーツ少年団加入者が多いことがわかる。

表9 スポーツクラブ加入の有無と形態 (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
スポーツ少年団 (学校での部活動)	42.1	17.3	36.6	30.2	23.5	30.2
その他のスポーツクラブ (スイミングクラブなど)	27.6	26.3	34.7	24.8	24.0	27.0
未加入	34.6	58.5	32.7	48.5	54.4	46.2
無回答	0.9	0.2	1.0	0.2	1.0	0.6

(2つまで○印)

### (2) スポーツクラブでのリーダー経験

表10はスポーツクラブでのリーダー経験についてたずねたものである。全体では、「多い」と回答した子ども9.4%と「やや多い」と回答した子ども21.3%を合わせると約3割であり、スポーツクラブ内でリーダーになることが少ない。この理由として、スポーツクラブが子どもの手による運営ではなく、大人の手による運営であるため、子どもたちのリーダー経験が少ないのではないかと考えられる。

リーダーシップ能力で比較すると、「多い」と「やや多い」を合わせると、上位群45.5%、中位群27.8%、下位群16.2%であり、リーダーシップ能力の高い子どもほど、スポーツクラブ内でリーダーになることが多いことがわかる。

表10 スポーツクラブでのリーダー経験 (%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
多い	10.1	8.3	15.4	6.6	7.5	9.4
やや多い	21.3	21.3	30.1	21.2	8.6	21.3
やや少ない	29.0	29.6	28.7	29.6	29.0	29.3
少ない	37.2	38.4	24.3	39.9	51.7	37.6
無回答	2.4	2.4	1.5	2.7	3.2	2.4

### (3) 理想的なスポーツクラブ

表11は理想的なスポーツクラブ像についてたずねたものである。全体では、「楽しくスポーツができる」が67.0%と最も多く、次いで、「自分にあったレベルで活動できる」の51.5%、「優しく楽しく教えてくれる指導者がいる」の48.2%、「友達がたくさんできる」の47.0%、「スポーツが苦手でもうまくなる」の44.2%と続いている。このことから、沢山の仲間と楽しくスポーツ活動ができ、自分で活動内容を選べるようなクラブを望んでいることがわかる。このような条件を満たすような理想的なスポーツクラブとして、多世代・多種目・多志向の三つの多様性を持つ総合型地域スポーツクラブがあげられる。性別で比較すると、差があった項目は、男子では、「体が丈夫になる」が多く、体力が向上することを望んでいる。一方、女子では、「自分にあったレベルで活動できる」「優しく楽しく教えてくれる指導者がいる」「スポーツが苦手でもうまくなる」「スポーツが苦手でも楽しめる」が多く、スポーツが苦手でも楽しく、自分のレベルにあわせて活動できるスポーツクラブを求めていることがわかる。

リーダーシップ能力で比較すると、上位群は下位群に比べて、すべての項目において上回っており、リーダーシップ能力の高い子どもは、スポーツクラブの活動内容に多くの意見を持っていることがわかる。

## 3. 体育の授業

### (1) 体育の授業の好き嫌い

表12は体育の授業の好き嫌いをたずねたものである。全体では、「好き」と答えた子ども56.7%、「どちらかといえば好き」と答えた子ども28.5%を合わせると8割以上であり、体育の好きな子どもの多いことがわかる。性別で比較すると、「好き」と答えた男子は64.9%、女子は47.8%であり、男子の方が体育の好きな子どもが多いことがわかる。

表11 理想的なスポーツクラブ像

(%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
楽しくスポーツができる	67.2	66.8	69.3	68.2	62.3	67.0
自分に合ったレベルで活動できる	48.1	55.1	47.0	55.5	47.1	51.5
優しく楽しく教えてくれる指導者がいる	38.3	58.8	50.0	51.9	38.2	48.2
友達が沢山できる	46.5	47.6	50.0	48.3	41.2	47.0
スポーツが苦手でもうまくなる	39.9	48.8	46.5	46.0	37.7	44.2
スポーツが好きになる	40.8	37.1	44.1	40.2	31.4	39.0
スポーツが苦手でも楽しめる	34.9	42.2	38.6	40.2	34.3	38.4
体が丈夫になる	46.0	29.3	46.5	35.4	34.8	37.9
いろいろなスポーツができる	38.3	37.6	45.5	37.2	32.4	37.9
自分の好きな時間に活動できる	34.4	40.0	35.6	36.6	39.7	37.1
楽しいメニューが沢山ある	33.3	36.8	39.6	34.5	31.4	35.0
いろいろな人と関わることができる	25.7	21.0	30.2	23.0	17.6	23.4
家族と一緒にスポーツができる	17.8	14.1	22.8	15.3	10.8	16.0
自分たちに任せてくれる	14.4	13.2	17.8	11.7	14.2	13.8
その他	3.2	1.7	3.5	1.8	2.9	2.5

(あてはまるものすべて○印)

リーダーシップ能力で比較すると、「好き」と回答した子どもは、上位群73.7%、中位群55.9%、下位群41.1%であり、リーダーシップ能力の高い子どもの方が体育の授業が好きである。

よくスポーツクラブ活動をし、体育の授業で積極的に活動をし、それぞれの場面でリーダー経験を積んでいることがわかる。

表12 体育の授業の好き嫌い

(%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
好き	64.9	47.8	73.7	55.9	41.1	56.7
どちらかといえば好き	23.9	33.4	20.8	28.4	36.3	28.5
どちらかといえば嫌い	8.9	13.9	4.0	12.6	15.7	11.3
嫌い	2.3	4.9	1.5	2.9	6.9	3.5

P<0.001

P<0.001

表13 体育の授業でのリーダー経験

(%)

項目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
多い	6.8	2.9	10.9	2.9	3.4	4.9
やや多い	15.7	12.2	28.7	11.5	4.9	14.0
やや少ない	30.1	29.3	39.1	32.1	15.2	29.7
少ない	47.2	54.6	21.3	52.6	76.0	50.8
無回答	0.2	1.0	0.0	0.9	0.5	0.6

N.S.

P<0.001

## (2) 体育の授業のリーダー経験

表13は体育の授業でリーダーになることが多いかどうかをたずねたものである。全体では、「多い」と答えた子ども4.9%、「やや多い」と答えた子ども14.0%を合わせると18.9%であり、体育の授業でリーダーになる子どもが少ないことがわかる。性別で比較すると、「多い」と「やや多い」を合わせると、男子は22.5%、女子は15.1%であり、男子の方がリーダーになる子どもが多い傾向がみられる。

リーダーシップ能力で比較すると、「多い」と「やや多い」を合わせると、上位群39.6%、中位群14.4%、下位群8.3%であり、リーダーシップ能力の高い子どもほど体育の授業でリーダーになることが多いことがわかる。

リーダーシップ能力の高い子どもは、よく外遊びをし、

## 4. 学校生活の満足度

表14は学校生活の満足度をあらわしたものである。全体では、「授業も分かるし学校生活も楽しい」が57.5%と最も多く、次いで、「授業は分からないが学校生活は楽しい」の27.6%であり、学校生活に満足している子どもが多い。性別で比較するとあまり差はみられない。

リーダーシップ能力で比較すると、「授業も分かるし学校生活も楽しい」と答えた子どもは、上位群77.8%、下位群29.9%であり、リーダーシップ能力の高い子どもほど学校生活に満足しているといえる。

表14 学校生活の満足度

(%)

項 目	男子	女子	上位群	中位群	下位群	全体
授業もわかるし学校も楽しい	55.6	59.7	77.8	61.2	29.9	57.5
授業はわからないが学校は楽しい	26.4	28.8	15.8	27.5	39.2	27.6
授業はわかるが学校は楽しくない	14.6	9.3	5.4	9.9	23.0	12.0
授業もわからないし学校も楽しくない	2.7	2.0	0.5	0.9	7.4	2.4
無回答	0.7	0.2	0.5	0.5	0.5	0.5

N.S.

P<0.001

#### IV. 結論

学校生活場面でリーダーシップを発揮している子どもは、よく外遊びをし、スポーツクラブや体育の授業に積極的に参加し、各場面でリーダー経験を積んでいる子どもたちである。子どもたちのリーダーシップ能力を養成するためには、外遊び・スポーツクラブ・体育の三者をしっかりと行うことである。しかしながら、今の遊びは貧困化しており、スポーツクラブや体育は子ども主体となっていないため、子どもたちのコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を十分に養成できる場になっていない。そこで、総合型地域スポーツクラブが重要になってくる。総合型地域スポーツクラブでは「スポーツの遊び化」というプロセスが体験でき、遊びに代わる場となるため、子どもたちは異年齢集団の中で、人に使われた経験や人を使う経験を積むことができる。この経験を通して、子どもたちはコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を身に付けていく。さらに、総合型地域スポーツクラブには、地域の教育力の向上や子どもたちの体力の向上など、様々な相乗効果が期待できる。このことから、総合型地域スポーツクラブが、遊び場面でのリーダー不在から、学校生活や学級経営に悪い影響を与えているという、負のスパイラルを止めるきっかけになり、多くの教育問題が解決される一つの切り口になるものと思われる

本研究をするにあたって、現地調査や資料収集等に協力をいただいた横山睦美嬢（愛媛県警）に深く感謝の意を表します。

#### 参考文献

1) 堺賢治 (2005) 「都市型スポーツライフと総合型地域スポーツクラブ—その必要性—」 みんなのスポーツ 2月号 pp.10-12

- 2) 山内裕美 (2010) 「総合型地域スポーツクラブに関する研究—スポーツクラブ21ひょうごの場合—」 愛媛大学教育学部 保健体育科卒業研究
- 3) 兵頭絵美 (2009) 「子どもの遊びとスポーツに関する研究—総合型地域スポーツクラブの場合—」 愛媛大学教育学部 保健体育科卒業研究
- 4) 堺賢治 (1998) 「遊び場面におけるリーダーシップに関する研究—仲間集団や学校生活に及ぼす影響—」 愛媛大学教育学部紀要 教育科学 第45巻 第1号 pp.131-141
- 5) 堺賢治・藤原誠・伊賀上哲旭・山本孔一 (2007) 「子どもの遊びとリーダーシップに関する研究—スポーツクラブと学校生活の関係を中心に—」 愛媛大学教育学部紀要 第54巻
- 6) 高橋奈々 (2009) 「中学校の部活動に関する研究—学校生活における部活動の役割—」 愛媛大学教育学部 保健体育科卒業研究
- 7) 住田正樹著 (1985) 「子どもの仲間集団と地域社会」 九州大学出版会 pp.126-127
- 8) 三隅二不二著 (1966) 「新しいリーダーシップ」 ダイヤモンド社 p.117
- 9) 堺賢治 (2000) 「子どもの遊び集団とリーダーシップに関する研究」 愛媛大学教育学部紀要 教育科学 第46巻 第2号 pp.127-134

